

VII 飲む

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くなったのか
-------------------------	--------------------------------

VII-1) 液体を飲む場に行く: 歩行・移動

液体を飲む場に行く	喉の渇きを感じられないため行かない。	水分補給に配慮(脱水にならないように)。
	どこに行けばいいのか分からずうろろしている。	声掛け誘導。

VII-2) 適切な位置に座る: 体と椅子・机の位置関係

適切な位置に座る	椅子を見ずに座る為、斜めに座っていたりしている。	声かけ・ジェスチャーにて修正を促す。
	机と離れて座る。	立ってもらい、椅子を近づける。
	座面の端やアームに座ろうとする。	腰を下ろす際に本人の殿部の位置にあわせて椅子を設置する。

VII-3) 飲み物の認識

飲み物だとわかる	飲み物と理解できるまでに時間を要す。	コップを手を持ってもらい、声をかけつつ覚醒を促す。
		使い慣れたコップに飲み物を入れる。
	液体が全て飲み物だと思ってしまう(消毒液なども)	薬品などは簡単に手の届くところに置かない。

その性質が、新鮮さ、粘度、温度、	ムセながら飲み続ける。	トロミを付ける・ゼリータイプの水分提供。
	予想していないものが入ってきたことによるむせこみ。	熱さの加減、コップ、ストローなどの容器や吹口の検討。

VII-4) 口に入れる

容器を持つ	水平に持たずにこぼしやすい。	手を添えて口元に運べるように誘導。
	コップのどこを持つかわからない。	コップを手を持たせる。 とってが付いたコップを導入。

元容器を運ぶ口	深いコップだと飲みにくい。	可動域に合わせた食器類を工夫する。
	口元の手前で傾けこぼす。	上肢と体幹・頸部の協調性を持ちやすくするための姿勢保持。

VII-5) 飲み込む

口を開けて受ける・吸う	飲み込む量の調節が出来ない。	とろみの濃さ・器・様々な物を組み合わせて調節。
		少しずつ提供。
	口を開けない。	場所を変えてみる。
		声かけする。

飲み込む	口腔内にため込んでしまう。	嚥下するように声かけする。
		喉や口角を刺激。
	水・お茶はため込む。	甘みを付ける・トロミを付ける・ゼリー状の水分を提供する。

VIII 着衣と履物はき

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

VIII-1) 着衣が置かれた場に行く:歩行・行動

着衣が置かれた場に行く	着衣が置かれた場に行くことができない。	本人の着衣が置いてある場所へ誘導する。
		介護者が提供する。
		本人の筆筒に目印をつけると共に言葉でも伝え続ける
		名前や、写真など自分のところだと分かるようにする。

VIII-2) 身につける衣類の選択

時間、場所などにふさわしい衣類を選ぶ	時間、場所などにふさわしい衣類を選ぶことができない。	好みを聞きながら介護者が用意する。
	同じ服ばかり着る。	どの洋服を選択してもよいので、選択を見守る。
		夏は同じシャツを複数枚用意し、冬の外出時はコートを用意 今日着る服を介護者があらかじめ出しておく。
	日中、寝巻を着ている。	ベッドに寝間着を準備する・衣類をほめながら着替えを促す 時間を伝える。
	季節感や行事の時の衣類の選択が難しい。	外を見ながら昼間であることを伝える。 「今日は寒いね」「お祭りだね」と言って一緒に選ぶ。
	衣類をまとめて荷造りしてしまう。	介護者が管理できる程度の服をタンスに入れ、そのほかは別で管理する。
衣類がないと「なくなった」と騒ぐ。	介護者が管理できる程度の服をタンスに入れ、そのほかは別で管理する。	
シタカンスから取り引き出す	タンスの中のものを次々に出してしまい、周囲に散乱させる。	介護者が管理できる程度の服をタンスに入れる。本人がいなくなるときに片づける。 名前シールをつける。
	いつも目の高さの引き出しに集中する。	お気に入りの衣類はハンガーにかけるなど、自分で見つかるようにする。
セット化する	セット化することができない。	介護者が好みをききながら行う。 話しながら介護者が一緒に行う。
	下着ばかりを取りだす。	一緒に確認しながら行う。
	一度上下着をセットしても、再び自分で別のものを探す、繰り返す。	出すだけ出して、後で介護者がかたずける。

VIII 着衣と履物はき

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手いったのか
-------------------------	-------------------------------

VIII-3) セットされたものを身につける

1. セーターなどかぶるタイプ

かぶる動作は適切か?	前後を判別できず「後ろ前」に着てしまう。	前後が逆になっていることを伝え直してもらおう。
	服の左右がわからない。	介護者の手を袖に通しておき、誘導。
	パンツを頭からかぶり、介護者が訂正すると怒る。	すぐには行動を制止しない。困ったところを見計らって手伝う。
	袖口と襟ぐりの区別が付かない。	着やすい形にして「此处に入れて」と伝える。
	上着を着ることができない。	指がひっかかったら、綺麗に通さないとそこで突っかかってしまっ、そこでもういいと言う人があるので、指の状態を確認する。 メガネをかけている人は、メガネを取ってあげたら自分から洋服へすと手を出す人もいる。 介護者が上着を裏にして片方のそで口まで腕を通し、次にもう一方のそで口にもう片方の腕を通す。その後認知症者と手をつなぎ、上着の両そでを認知症者の腕に通す。この時つないだ手の部分で上着が引っ掛からないように配慮する。

が位置に合った適切な部分に収まるか?	パーツに体の部位が入っていないことがある。	上手く入らないパーツ部位は先に体を通す。
	着替えが終わった時に整えられない。	介護者と一緒に鏡で確認して整える。
	中の下着が丸まったままの状態。	介護者が引き出す。

2. 背広・シャツなど前で合わせるタイプ

肢両を袖に通にせ両の方のかの?上	洋服のパーツに体の部位が入っていないことがある。	上手く入らないパーツ部位は先に体を通す。
	片袖だけ手を通している。	もう一方は介護者が手伝う。
	袖口から上肢を通そうとする。	否定せずに、正しいやり方を伝える。
	着る行為なのか。脱ぐ行為なのか解らなくなる。	時間はかかるが、介護者が言葉をかけながらゆっくり行う。

ナーボタン、ファスナーなどをかけられるか?	ボタンの掛け違いがある。	大きなボタンやはっきりした色のものにする。
		一番上だけを先に止める。
		左右の手でもつ場所を伝え、本人に持ってもらおう。
	ファスナーをかけられない。	やり方を一度介護者が示す。 左右の手でもつ場所を伝え持ってもらおう。

VIII 着衣と履物はき

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

3.ズボン・スカートなどはくタイプ

れ 両 脚 を 中 か に 入 る か ?入	一側に両脚を入れる。	一側は介助で入れ、もう一側は自力で行ってもらう・左右分かりやすいように広げて渡す。
	ズボンの左右がわからない。	座ってズボンを見てもらいながら、まず左右のズボンに両足の先だけを入れる。 順番にひと工程ずつ伝える。

ナ ボ タ ン な ど を フ ア ス ナ ー か け ス	ボタン、ファスナーなどをかけることができない。	総ゴムの衣類に変える。
---	-------------------------	-------------

4.靴下をはく

に 足 を 靴 下 の 中 か れ ら れ る 中 ?入	手にはいたり、頭の上のにせる。	順番にひと工程ずつ伝え、介護者がやって見せる。
	片足に2枚はく。	介護者が工程を言葉で伝える。
	身体を曲げて足先を見ることが難しい。	先だけ入れて後、引っ張ってもらう。

5.履物をはく

足 を 靴 の 中 に 入 れ た り 履 物 に 固 定 し た り で き る か ?	踵を靴に入れずサンダル履きする。	踵を靴に入れるように声掛けにて対応する。 靴の大きさ、浮腫、痛みの観察。
	靴をはかないで歩き出してしまう。	靴を提示し、言葉をかけて靴をはくように促す。 靴の大きさ、浮腫、痛みの観察。
	左右を間違う。	左右がわかるようにしるしをつける。
	マジックベルトやファスナーをしないなど。	その人にあった靴を選び、提供。 はき終わるまで見守り、介助する。
	足背・足底が逆のまま足を靴の中に入れる。	正しい方向で履けるよう靴を手渡す。

ま 全 と 体 の め	気になった所のみ、いじっている。	ほかの部分も行うように声かけする。 介護者が介助する。
----------------------------	------------------	--------------------------------

の 袖 位 や 置 裾	袖や裾の位置の調整ができない。	介護者が介助する。 自尊心を大切にして、人前では介助しない。
----------------------------	-----------------	-----------------------------------

半 上 身 の 調 整 目 下	シャツがめくれたままなおさず、勝手にさわると、服を引き出されると怒る。	自尊心を大切にして、人前でなおさない。
	上着がはみ出ている。	さりげなく手伝う。

IX 脱衣

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手いったのか
-------------------------	-------------------------------

IX-1) 着衣がおかれた場に行く:歩行・移動

着衣が置かれた場に行く	着衣が置かれた場に行くことができない。	言葉をかけて誘導する。
	自分のものがある場所を判断せず、動いてしまう。	本人の着衣が置いてある場所へ誘導する。
	自分のたんすを他者のたんすと間違える。	名前・写真をつけて持ち物確認できるようにする。

IX-2) 身につけているものを脱ぐ

セーターなどかぶるタイプ

脱ぐ動作は適切か?	脱ぐことを嫌がる。	上衣を脱がす時は下衣に、下衣を脱がす時は上衣に注意を誘導する。
	脱ぐ順番がわからない。	一つずつ工程を区切って、言葉や動作で伝える。
	脱ぐ動作が途中で止まる。	途中でであることを伝える。
	顔にあたることを嫌がる。	顔に当たらないように、襟ぐりを広くして介助する。
	室温や場所に関係なく衣類を脱ぐ。	居室に誘導し対応。
		衣類調整をする。
		脱いだらその都度衣類をきて貰う。
	室内の温度調整をしたり、衣類の調整をする。	
衣類をゴミ箱に捨てる。窓から捨てる、破く。	回収し洗濯してそっと返す。破いた衣類は家族に見せて新しい物と交換する。	
脱いだり着たりを繰り返す。	繰り返す場合は介護者が介助して、次の動作へのきっかけを作る。	

2.背広・シャツなど前で合わせるタイプ

ボタン、ファスナーなどを外せるか?	ボタンが外せない。	脱ぐ動作の前にボタンを示して認識してもらう。
	外せない。	ひとつ目を外す、はじめを促す。必要に応じてその他は介助する。
	指示するとできない。しばらくすると外せている。	介護者が過剰に声をかけない、あえて指示をしない。

袖から上肢を抜けるか?	腕を曲げたり伸ばしたりの連続動作が難しい。	動きを言葉のみではなく行動で動かし示す。
	麻痺側の袖を抜かない。	抜いていないことを伝える。

ボタン、ファスナーなどをかけるか?	ボタン、ファスナーをかけられない。	介護者が介助する。
	途中で手が止まってしまう。	言葉をかけて、動作を促す。
	時間がかかる。	大き目のボタンや目立つ色のボタンやファスナーにする。
	掛け間違いがある。	大き目のボタンや目立つ色のボタンやファスナーにする。

3.ズボン・スカートなどはくタイプ

足を抜けるか?	はこうとしてしまう。	介助して上衣を脱がす時は下衣に、下衣を脱がす時は上衣に注意を誘導する。
	はく時に身体のバランスを崩すことがわからない。	いすに座ってはけるようにする。

IX 脱衣

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

4.靴下を脱ぐ

足を靴下から外せるか？	靴下から足を抜けない。	座っている時、横になっているときに脱ぐ介助をする。
-------------	-------------	---------------------------

5.履物を脱ぐ

足を靴やその他の履物から外せるか？	靴のまま部屋にあがってしまう。	入り口にそれまで履いていた靴とは異なる履物を置き、履き替えるように促す。
		座っている時、横になっている時に脱ぐ介助を行う。
	靴を靴と理解せぬまま、ずっと撫でている。	無理に脱がせようとせずに、待つ。
	脱いだ時に、靴の向きがバラバラになる。	介助して靴の向きを整える。

X 入浴

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

X-1) 浴室に移動する:歩行・移動

浴室に移動する	事前に「入浴する」と説明すると、嫌がる。	早めに誘うことはせず、直前に浴室の近くに誘導してから入浴について説明する。
	大人数の前で裸になることの不快感があり、入浴することを拒否する。	入浴の順番を変更しながら(1人→少人数→大人数)大人数に慣れるようにする。
	入浴することを拒否する。	「温泉ですよ」と言葉をかける。
	服を盗まれると訴え暴れ、入浴することを拒否する。	洗い替えをそばに置き、「服はありますよ」と示しながら服を脱いでもらう。脱いだ服は本人に気づかれないようにかごに入れ洗濯機の中に入れて持ち帰らないようにする。
	浴室に移動することがわからない。	言葉がけしながら浴室へ誘導する。
	浴室に移動中にどこに行くのか忘れる。	移動中にお風呂に行く旨を伝え続ける。

X-2) 脱衣

1.セーターなどかぶるタイプ

脱ぐ動作は適切か?	脱がない。	袖を先に脱ぐように促す。
	お風呂に入るために脱ぐということがわからない。	浴槽を見ていただく、仲良しの利用者と一緒に入浴にする。
	周囲に人がいると脱がない。	他の人と空間を区切る。
	脱ぐことを嫌がる。	上衣を脱がす時は下衣に、下衣を脱がす時は上衣に注意をむけられるように言葉をかける。
	頭を襟ぐりから抜くことができない。	大き目の衣服へ変える。
	脱ぐ途中で手が止まってしまう。	介護者が言葉がけして脱ぐ動作を促していく。
	服を脱ぐ事を忘れて入浴しようとする。	服の背中部分を軽く上げると気付いて脱ぐことができる。

X 入浴

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

2.背広・シャツなど前で合わせるタイプ

ボタンを外せるか？	脱ぐときにボタンをいじっているだけではずせない。はずせないのぢぎる。	一定の時間は待ち、必要時介助する。ボタンのない服を検討する。
	脱ぐときにボタンをはずせない、引きちぎる。	一定の時間は待ち、必要時介助する。ボタンのない服を検討する。
	ファスナーの下部分がはずせない。	ファスナーの最後の部分は介助。
	指示するとできない。しばらくすると外せている。	介護者が過剰に声をかけない、指示をしない。

袖から上腕を抜けるか？	袖の途中で衣類が詰まり、肌着と服が一緒になってしまう。	一枚一枚、袖を抜くように言葉をかけ、介助する。
	袖口を引くことが出来ない。	介護者が袖口を少し引っ張り、協力動作をしていただく。

ボタンなどファスナーをかけるか？	ファスナーの下部分をかけられない。	ファスナーの下部分は介護者が介助する。
	ボタンの掛け違いをする。	一定の時間は待ち、必要時介助・ボタンやファスナーのない服を検討する。
	ボタンをかけるのに時間がかかる。	大き目のボタン、目立つ色のボタンに変える。

3.ズボン・スカートなどはくタイプ

足を抜けるか？	はこうとしてしまう。	上衣を脱がす時は下衣に、下衣を脱がす時は上衣に注意をむけられるように言葉をかける。
	足を抜く時に身体のバランスを崩すことがわからない。	イスに座って足を抜いてもらう。

4.靴下を脱ぐ

靴下を脱ぐか？	足先の方から引っ張ろうとする為、靴下が伸びて脱げない。	イスなどに座って脱ぐことを伝え、介護者は最初だけ手伝う。
	つま先から引っ張り 転びそうになる。	イスなどに座って脱ぐことを伝え、介護者は最初だけ手伝う。

5.履物を脱ぐ

足を脱ぐか？	途中で手が止まってしまう。	言葉かけし、動作を促す。
	ひもを外すのに混乱する。	靴のベルトをもう引っ張らなくてよいことを言葉で伝える。
	靴のベルトを急に引っ張る。	介護者がひもを外す。

X 入浴

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

X-3) 予備洗い

洗面器など容器を手にする	予備洗いをせず、いきなり浴槽に入ろうとする。	介護者が先にお湯をかけて体を洗う介助をする。
	できない:指示がはいらぬ。	そのまま止めない。
	洗面器ではお湯をくみ出せない。	介護者が介助する。
	桶で汲めてもかけられない。	介護者が介助する。
	洗面器を手にしぬ。	介護者が渡す。 洗面器の位置を示す。

水を汲む	水を汲むことができない。	介護者が行う。
	洗面器を使用せず、手ですくおうとする。	洗面器を渡せば浴槽の湯をくむことができる。

前を洗い流す	前を洗い流すことができない。	声掛けし行為を促す。できない場合は介助する。
	必要以上に何度も繰り返し前を洗い流す。	もう洗い流せたことを言葉がける。
	シャワーを嫌がる。	桶でお湯をかける。お湯を含んだタオルを使う。

X-4) 浴槽に入る、出る

またいで入る	またいで入ることができず、介助すると暴力行為となる。	介護者2人でシャワーで介助を行う。
		つかまってもらい安心感を与える。
	またぐときに柵がる(深さが解らない)。	シャワーチェアに座ってもらってから一度浴槽に片足を入れ、片足がつくの確かめてもらってから、もう片方の足を浴槽に入れてもらう。
	浴槽の淵に立ちあがる。	その方の能力にあった入浴の仕方を言葉やジェスチャーで促す。

越えて出る	湯船から立ち上がろうとしぬ。	言葉で、一つ一つの動作を説明して誘導する。
		「●分入っていますよ」と時間を伝える・時計を置く・飲み物を見せる。
	柵がる。	お湯を抜き、湯量が少ないことで湯船から出たことを伝える。 タイマーをかけて出るきっかけを作る。
	浴槽から出るときに再び元に戻って入ってしまう。	握る手摺の指示をし、出口に向ける。
	浴槽の中央に座り、浴槽のふちを両手で力いっぱい握ってしまて、浴槽から出たこれぬ。	浴槽のふちなど両手で握ってもらいながら、浴槽のふちに腰かけてもらう。 その後も必ず何か両手で握ってもらいながら、浴槽から片足ずつ出していく。

X 入浴

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

X-5) 浴槽につかる

体を と姿勢 をつか	恐怖にあおられて、腰をつけてもらえない。	無理にお湯につかせない。 腰を曲げるように、軽く腰を刺激。
	姿勢が保てず湯船にういてしまう。 体が浮く。	お湯の量を少なめに調整して対応する。 介護者が本人の肩をかるく押さえておく。

X-6) 洗体の用意

タオル やスポン ジを 用意する	タオルやスポンジを用意することがわからない。	あらかじめ介護者が用意しておく。
石け んなど 洗剤を 用意す る	石けんなど洗剤を用意することがわからない。	あらかじめ介護者が用意しておく。
洗面 器など 水を 入れる 容器 を 用意する	洗面器など水を入れる容器を用意することがわからない。	あらかじめ介護者が用意しておく。 洗面器を示して、用意することを伝える。

X-7) 洗体の実際

タオル 等につ ける洗 剤	どうしたらよいかわからない。	介護者が目の前でやって見せる。
	石鹸をタオルにつけられるが液体石鹸はできない。	石鹸を用意する。
	洗剤を顔に持っていく。	介護者が行う。
こた げに 水	どうしたらよいかわからない。	介護者が目の前でやって見せる。
	口に入れる。	介護者が行う。
オス ルポ ンジ を洗 う、 てタ	同じ所をごしごし洗い続ける。	異なる部分を洗うように示す。
	洗いがわからず、どうしてよいかわからない。	介護者が目の前でやって見せる。
	石鹸やボディソープと間違えて浴槽用洗剤で体を洗おうとする。	入浴に必要なものは浴室内に置かないようにする。
洗 い 流 す	流し方がわからず、どうしてよいかわからない。	介護者が目の前でやって見せる。
	流し残しがある。	流し残した部分を介護者が介助する。

X 入浴

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手かったのか
-------------------------	-------------------------------

X-8) 洗髪

シャンプーなど洗髪剤を用意する	シャンプー・リンスなど洗髪剤を用意することができない。	介護者が用意して渡す。
	シャンプー、ボディソープ、リンス等の区別ができない。	介護者が用意して渡す。
洗髪剤を髪につける	洗髪剤をどうしたらよいかわからない。	介護者が目の前でやって見せる。
	洗髪を拒否。	シャンプーハットを使用。
	シャンプーを手に取ると顔を洗おうとしてしまう。	シャンプーを髪につけることを言葉やジェスチャーで伝える
	口に入れる。	シャンプーを髪につけることを言葉やジェスチャーで伝える
つけた洗髪剤を洗い流す	前髪など一部分は洗えるが十分できない。	行き渡らせることができない部分は介護者が介助する。
	何度も頭を洗ってしまう。	洗髪後すぐに体を洗うように言葉をかける。
シャワー洗い流す	シャワー・洗面器を用いて洗髪剤を洗い流すことができない。	介護者が介助する。
	シャワーをかけながら洗うため右側のみが主となるを洗い流す。	左側は介護者が行う。
この際、目を閉じる	洗髪中に目を開けてしまう。	下を向かせて水が流れていく、感覚を感じてもらい閉眼を促す。

X-9) 拭き取り

タオルを手にする	タオルを手にしなない。	介護者が用意して手渡す。
タオルを濡らして拭く	拭き取りせずに脱衣室に移動する。	何もせずに見守る。
	身体の一部だけしか拭かない。	「此処も拭いてね」と他の部分を示す。

X I 移乗

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

X I-1) 介護者の意図について

意図の理解	介護者の意図を理解できない。	了解できる単語を繰り返すと機嫌よいため、その後にジェスチャーや本人の手や身体の一部に手を添えながら介助。
	意図の理解ができない。	介助。
	ただうなずいて笑っているが、そのうちに怒りだす。	タイミングを計り直す。 何を了解していないのか、拒むメッセージを理解する。
	返事はあるが、行動が伴わない。	言葉と動作で指示する。
	その場での指示の理解はできるが数分たつと忘れる。	そのつど繰り返し説明する。
	椅子に着席した状態から立ち上がらない。	介護者の左手で認知症者の左手を握り、介護者の右腕を認知症者の右わきの下から前胸部に通して前胸部を手背で押える(これは転倒予防)。認知症者は両脚を前に出して踏ん張るように腰かけていることも多いので、両脚を立ち上がりやすいように一度後方に引いてもらい、介護者は「行きましょう」と言葉をかけながら立ち上がってもらう。椅子と垂直の位置に置かれた車イスへの移動では、認知症者の右手で車イス右のアームレストをつかんでもらい介護者が身体ごと認知症者を支えながら車イスの方へと移動を促す。重心が前にいくので動かしやすい(?)
	立ち上がらず、逆に身体が後方に反ってしまう。	肩関節を動かして身体をほぐす。反って肩甲骨全体が前に出て前傾になり、立ち上がるための姿勢が整うようにする。場合によっては肩関節を動かす時に首筋も伸ばし、肩をマッサージして緊張を取ることもある。

X I-2) ベッドから車いす/車の中への移乗の過程

体がベッドから離される	怖がる。	不安がないように話しながら、介護者は身体を密着させる。
	重心の移動がうまくできず、後方へ突っ張ってしまう。	重心の移動を促す。
	起きようと伝えても、つかまるところがわからず、ベッドから起き上がれない。	介護者が手を引いて起きてもらう。
	ベッド柵や車椅子アームレストを離さない。	移動先を充分説明したり、触ってもらう。
空間を運ば	怖がる。	不安がないように話しながら、介護者は身体を密着させる。
	うまく方向転換できない。	「足を1歩前に出して」などと足を置く位置を伝える。
	近くにあるものをつかんで離さない。	手を本人の胸腹部においてから介助する。
車椅子に乗せられる	体を硬直させる。	臀部から座面に着けるように、腰部を軽く押す。
	車椅子の部分につかまろうとする。	怪我のないように、つかまろうとする部分に常に注意をばらう。
	急に座る。	ゆっくりすわるように声かけ。

X I 移乗

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
体の各部 車椅子の適切な部位に置く お尻、脚、上肢を	ステップに足をのせることをしない。	介護者が介助する。
	傾いていても自ら修正しない。	正しい位置へのポジショニングを言葉で伝える。
	お尻が半分しか座面に乗っていない。	立ちあがってから座りなおすように誘導する。
	アームに座ろうとしたり、シートの前方に腰を下ろす。	立ちあがってから座りなおすように誘導する。
望ましい肢位を維持する	傾いていても自ら修正しない。	随時、ポジショニング、クッションなどを利用して肢位を保つ。
	おしりが前にずれる。	こまめに直す。
	アームレストから腕が落ちる。	膝の上に手を置く。
体が車椅子から離される	大きな声を出したり・身体を突っ張らせて抵抗する。	何をする為にベッドに移るかを説明し、一緒に動いて頂くように言葉をかける。
	介護者の体に力いっぱいしがみつく。	介護者がしっかり利用者の体を支える、安心できる言葉をかける。
	何をされるのか声をかけても不安になる。	身体につかまるように促す。
	ベッド柵や車椅子アームレストを離さない。	移動先を充分説明したり、触ってもらう。
	重心の移動がうまくできず、後方へ突っ張ってしまう。	重心の移動を促し、不安にならないよう言葉をかける。
空間を運ばれる	しがみつく。	不安がないように安全に配慮してゆっくり移動する。
ベッド上に乗せられる	立位から座る際に、強く力が入り座ろうとしない。	安心できるように言葉をかける。
	介助しようとするとなぐりだしたり拒否してしまう。	安心できるように言葉をかける。
	乗ったことを自覚するまで不安がある。	落ち着くまで手を握る。
	フットサポートに足を乗せたまま立ち上がる。	フットサポートから足を下ろすように言葉やジェスチャーで誘導する。

X I-3) 自動車の乗り降り

足を地面から車内上げる	指示するとできない。	黙って見守る。
	介護しようすると怒り出す。	車椅子に乗車してもらいそのまま乗車。
	膝から這うように上がる。	手順を伝えて、誘導する。
	車の助手席にスムーズに乗り込むことができない。(具体的には助手席に右足の膝を立てて上体をかがませ、右手は背もたれ、左手はダッシュボードをしっかりとつかんでしまうので、空間が狭いこともあり乗り込めるよう介助できない。)	助手席のドアの窓ガラスを下げ、窓の下枠を左手で持ってもらい、右手はダッシュボードを持ってもらい、次に右足を車内に入れて助手席前に置き腰かけてもらい、最後に左足を車内に入れて助手席前に置いてもらう。

X I 移乗

て体をかがめる 部ドアの内 に入る	各行為についてケアが難しかった 生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア (介助)をしたら上手くいったのか
	体をかがめる意図がわからず、大きな声で抵抗。	指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。
空間がどのくらいあるのかわからず、頭をぶつけやすい。	頭を保護する。	

X I 移乗

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
車内に乗り込む	重心が崩れるために、抵抗する。	指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。
	狭い空間に入ることを嫌がる。	反対のドアの方から介護者が誘う 介護者が先に乗る。
座席に前向きに座る	介助すると怒る。	指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。
	右脚から車内に入り、そのまま後ろ向きに座り込んでしまうので、シートに腰かけることができない。	車に対して右ななめに向かってもらい、右脚から車内に乗り込んで腰かけてもらう。その際認知症者の右大腿の後ろを介護者の右大腿前面で支えて身体のバランスが崩れないようにする。
座席から腰を上げる	介助すると怒る。	指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。
	おしりをずらしながら動く事が難しい。	言葉をかけて誘導する。
ドアの横に移動	ドアの横へ移動しない。	言葉をかけて誘導する。
ドアを開ける	走行中にドアを開ける。	チャイルドロック等を使う。
	間違えて窓を開けてしまう。	危険のないよう見守り、必要時介助する。
体をそのまま座かでのめ	空間を量り動くことは苦手で力が入りすぎる。	平行棒をくぐる練習や環境適応訓練、障害物ジムを行う。
を外に出す脚の	介助すると怒る。	指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。
上頭を下げ足をてつ地	介助すると怒る。	指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。
	高さが解らず、段差を怖がる。	足がつくまで支える。

X II 座る

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

X II-1) お尻の位置がポイント

お尻の位置	浅く座る。	後ろに少しずつ下がって深く座ってもらう。
	徐々に前方へずれていき、ずり落ちてしまう。	定期的にポジションの確認をして、長時間同じ場所での座位とならないよう空間の移動を意識して行い、立ち上がり・立位を行えるようにする。
	斜めに座る。	声かけにて修正促し、自分で修正できない際は介助する。
	座る位置を間違えて手摺に座るなどがある。	椅子を移動させる。

X II-2) 大幹の位置・姿勢

体幹の位置・姿勢	傾く。	クッション等を使用して姿勢を整える。
	中心に座れず、端に座る。	言葉かけし、椅子を押す、身体をかかえるなどして座る位置を整える。
	じっとしてられず頻回に立ち上がる。	興味の持てる活動を提供する。 一度一緒に歩行して落ち着いたら席へ誘導。

X II-3) 下肢の位置・向き

置下・肢向のき位	車椅子のフットレストの外側に足を出してしまう。	言葉をかけて介助し、位置を整える。
	端におく。	言葉をかけて介助し、位置を整える。

X II-4) 上肢の位置

上肢の位置	上肢の位置が椅子からはみ出す(けがの危険がある)。	車いすの肘掛などにスポンジや布をあてる。
		ぬいぐるみなど本人が好むものを抱いていただく。
	椅子を両手でつかみ膝で座ろうとする。	言葉をかけて座り方を誘導する。

X II 座る

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

X II-5) 座位の位置

体のパーツごとに:評価という観点

ねじれ	正面にきちんと座れない。	介助して直す。
	傾き姿勢を維持できない。	クッション等を使用してねじれを直す。
	テレビに向いてばかりいる。	テレビを本人の正面に位置するようテレビの場所や向きを変える。
位置	傾きが、覚醒度によって日々変化する。	前夜の様子を聴取して、対応を変える。
	傾き等によって適切な位置を維持できない。	クッション等で対応して位置を直す。
姿勢	頸が後屈する。	ヘッドレストを活用して姿勢を整える。
	前屈みになる。	福祉用具を活用して姿勢を整える。
	何度も修正しても、臀部をずらし座ってしまう。	繰り返し声かけし、修正を促す。
向き	傾きが、覚醒度によって日々変化する。	前夜の様子を聴取して、対応を変える。
	傾き等によって適切な位置を維持できない。	クッション等で対応。
自圧迫は	じっとしたまま動かない。	福祉用具を活用して自圧迫を軽減する。
		介助して座り直してもらう。
その他	じっとしていられず頻回に立ち上がる。	興味の持てる活動の提供
		一度一緒に歩行して落ち着いたら席へ誘導。

X III 仰臥位

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

X III-1) 仰向けであること

あ 仰 向 け と で	仰向けでじっとしたまま動かない。	福祉用具(エアーマット)を利用して褥瘡を予防する。
	仰向けになれず側臥位ままている。	福祉用具(エアーマット)を利用して褥瘡を予防する。

X III-2) ベッドや布団などの長軸に体が平行の位置にあること

の ベ 位 長 ツ 置 軸 ド に に あ 布 あ 体 布 団 こ 平 な と 行 と	枕に頭を合わせようともがくができない。	手をとって枕を触れてもらうと誘導しやすい。
	体動が多く、転落等の危険性がある。	ベッド柵にカバーを取り付ける。
	ベッドに斜めに臥床し、足を出してしまう。	ベッドの高さの検討。センサーなどで転落を防ぐ。
	身体の向きをどうしたらよいかわからない。	かけ布団を縦長に盛り上げて位置を理解してもらう。

X III-3) 頭部・大幹・上肢・下肢の姿勢と位置関係が適切であること

肢 頭 の 部 の 姿 勢 と 体 幹 と 上 肢 と 下 肢 の 位 置 関 係 が 適 切 で あ る こ と	上向きだが、腰の位置がずれる等見られる。	介助して適切な位置に動かす。
---	----------------------	----------------

X III-4) 自圧迫は

自 圧 迫 は	一度とった体位のまま動かない。	時々介助にて、体位を変える。
------------------	-----------------	----------------

XIV お化粧

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

XIV-1) 鏡の前に行く、適切な位置に立つ・すわる: 身体と鏡の位置関係

鏡の前に行く	鏡の前に行こうとしない。	整容をしましょうと言葉がけをする。
立適切な位置にすわる	鏡に向かって立つが、動いてしまう自分に影響されて戸惑う。	言葉がけをして安心を促す。

XIV-2) 髪の毛を整える

ブラシを持つ	ブラシ、くしを自らとろうとしない。	介護者がブラシ、くしを渡せば自分で持つ。
	義歯用のブラシをくしと間違えてしまう。	言葉をかけてくしを渡す。
でブラシの形をくしを整える	自ら整えようとする。	介護者がブラシ、くしを渡せば自分で整える。
	ブラシ、くしを髪にあてない。	ブラシ、くしの使い方を介護者が手を添えて示す。
	洗髪後のブラッシングを片側ばかり行う。	もう片側についても整えましょうと介護者が言葉をかける。
鏡を認める	自分の姿と思わず鏡に向かって話を始める。	介護者が整容を共にする事で、本人が自ら気づく。

XIV-3) 化粧品(化粧水や乳液、下地クリーム、おしろいなど)を順番に適量手やパフに取り出す

化粧品のふたをあける	化粧品の置き場所がバラバラになり整頓できない。	介護者が整える。
	汚れたパフを使い続ける。	化粧箱の中身の管理は介護者が行い、新しいパフを用意しておく。
	化粧水や乳液が重複してある。	化粧箱の中身の管理は介護者が行う。
手やパフなど化粧品を取り出す	つける順番を間違える。	介護者が言葉がけをする。
	同じ化粧品を二度つける。	介護者が言葉がけをする。
	適量出せない。	介助する。化粧品は介護者が管理する。
化粧品のふたを閉める	ふたの開けっぱなしや、使ったところに置きっぱなしにする。	介護者が言葉をかける。 介護者が整える。

XIV お化粧

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

XIV-4) 化粧品を顔全体にまんべんなくつける

の化粧品を顔全体にまんべんなくつける	適量つけられない。	塗り過ぎたり塗り残しがないか確認し、介護者が介助する。
--------------------	-----------	-----------------------------

化粧品を眼や唇には避ける	顔中にまんべんなく塗ってしまう。	介護者が、塗り過ぎた部分をぬぐい整えてあげる。
--------------	------------------	-------------------------

XIV-5) 口紅をつける

口紅のふたを開ける	口紅のふたを開けることができない。	介助。
-----------	-------------------	-----

口紅を適量出す	回しすぎて、口紅を出しすぎる。	介護者が適度な長さに出す。
---------	-----------------	---------------

口紅を筆に適量つける	過剰に塗っている。	介護者が、塗り過ぎた部分をぬぐい整えてあげる。
------------	-----------	-------------------------

唇に紅を適量つける	過剰に塗っている。	介護者が、塗り過ぎた部分をぬぐい整えてあげる。
-----------	-----------	-------------------------

唇の形を整える	唇からまがったりはみ出たりする。	介護者が形を整えてあげる。
	巧緻性・協調性低下し、同じところを塗り重ねる。	介護者が形を整えてあげる。

口紅を戻す	回しての操作がわからない。	口紅を戻す介助をする。
	口紅を戻すのを忘れる。	口紅を戻す介助をする。

口紅のふたを閉める	口紅の蓋のしめ方がわからない。	介護者が介助する。
-----------	-----------------	-----------